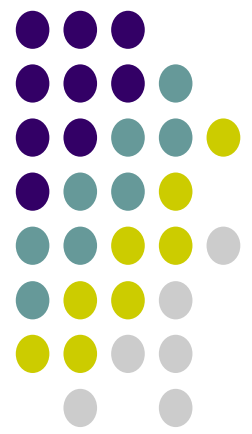




フェローシップ・ニュース NO.24



国際協力活動 IN マニラ

現地調査を終えて・・・

報告：サム

JICA（国際協力機構）とかねてより話を進めていた協働事業が、実現に向けて一歩踏み出しました。現地調査の様子を報告させていただきます。

7月24日から3泊4日でフィリピンのマニラへ行ってまいりました。現在進行中のJICAとの草の根活動の進展を期して私は、理事長の近藤、非常勤の嶋根研究員、沖縄ダルクの三浦氏と共に、先方のJICAの現地事務所、NAメンバー、施設スタッフと打ち合わせをしてきました。

私はフィリピンが初めてであるため、まず驚いたのは、空港から市街までの道です。大渋滞でセンターラインも見分けがつかず、タクシーも多くクラクションを鳴らしながらわれ先にと割り込みにつぐ割り込みでまさに、右に左とに縫うよう（sawing driving）に運転しています。走っている車は白い小型タクシー、銀メッキの中型乗り合いバス、屋根つきの有料バイク、自転車が接触すれすれで走っています。でも渋滞ですのでそんなにスピードはでていません。するといきなりサイレンの音が後ろから鳴り、政府幹部らしき車が誘導されて追い抜いていきます。途中両替に地元の銀行に立ち寄りしました。ホテルよりもレートがいいとのことですが、入り口にはいきなりショットガンを抱えた警備員にまず驚かされました。



ファミリー・ウェルネス・センターの前で、職員とアパリの一行と記念写真

さてホテルにつききましたが、まず車の底を鏡でチェック、トランクを見せて、荷物は「K1」と書いたTシャツを着ている警察官の連れているシェパードによる麻薬のチェック、更に手荷物、金属探知機検査を受けて入りました。3時ごろでしたので早速プールサイドで打ち合わせをしました。我々4人ともスモーカーで、宿泊は喫煙フロアでいいのですが、レストランも路上も禁煙です。4人とも機会あるたびに一服。結構気を使いました。

夜は中華とフィリピンと日本のシャブシャブを混ぜ合わせたような料理をいただきました。ペキンダックも安く4人でシャブシャブとペキンダックと飲み物で合計3,300ペソですから1万円です。2日目には今回協力を申し出ていただいた、元駐米フィリピン大使の私邸に招かれました。保健省の役人、NAメンバー、施設長などが集まり今回の我々の目的を説明し、フィリピンの薬物依存についての問題を話しあいました。

実は元大使は米国に駐在中お二人の息子さんを薬物に命を奪われているのです。4ヶ月前から薬物依存の問題を保健省がとって代わりNAの12ステップを使いたいという話も出たとのこととてもタイムリーでした。



左から、近藤、嶋根、保健省の役人、元駐米大使



ファミリー・ウェルネス・センターの門



元駐米大使の自宅に招かれて昼食

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

発行日
2007年9月1日

APARIとは、アジア太平洋地域アディクション研究所（Asia-Pacific Addiction Research Institute）の略称です。

全国のDARCやMACの各施設、福祉・教育・医療・司法関係者と連携しながら、依存症から回復しようとする方々を支援しているシンクタンクです。

目次：

国際協力活動 Nマニラ・・・サム	1
家族セミナーの感想文・・・家族A	2
薬物依存症と家族の対応について(1)・・・町田	3
C型肝炎とエイズのこと・・・コトー	4 5
入寮者からのメッセージ・・・アキオ	6
藤岡の報告・・・マサル	7
アパリからのお知らせ	8



フィリピン名物のハロハロを食べる三浦氏と現地スタッフ



近藤理事長、常にメールで業務連絡？

お昼は皆で元大使のお宅でごちそうになりましたが、メイドさん4人が入れ替わりサービスしてくださいました。

翌日はマカティのマーケットの突き当たり位置する、民間のリハビリ施設（ファミリー・ウェルネス・センター）を訪問しました。入寮者は5名ですが門は高く出入りはチェックされています。入ってくる輩も危ないからとか。特徴としては朝7時半からNAミーティングがあり、施設内でのミーティングらしいです。マニラでは施設内でNAが開かれています。夜は交通費を支給されてNAに参加すると出席簿にサインがもらえるそうです。3階建ての鉄筋コンクリート造りで、スタッフはかつて薬物依存症者で、コデインの依存だと聞きました。8年止めている施設長です。残りのスタッフもリカバリングで6年目の人と若い人でした。他に食事の用意や施設のメンテナンスをしてくれるボランティアが3名いました。オフィスは冷房が効いていてミーティングの合間だったので皆、歌を歌ったり和気藹々としていました。昼食は近くのレストランで食べ、デザートはフィリピンの夏定番のハロハロでした。

翌日はJICA現地事務所で打ち合わせ。50階建てのビルの40階に事務所がありました。景色はマニラが一望できます。JICAの女性の次長が対応してくれました。地元の人から信用を得るのが必要とのアドバイスを戴きました。

その夜はマニラをゆっくり散歩しました。ホテルの裏手にバスターミナルがあり夜10時ごろでしたが、古い大型バスが何列にも並び、中には「非常口」と日本語で書いてあるバスもありました。大声でバスの行き先を書いたダンボールを見せて人を案内していました。近藤は日本の終戦後のようだとっていました。帰途につきましたが、空港に早く着きすぎました。さらに出発も遅れ成田には21時ごろ到着しました。

今回は最短の調査だったので、まだ調査の足りないところもあり少し不安が残りました。8月14日に広尾にあるJICAに行き、前回のミンダナオ島からマニラに変更した内容や現地調査の報告をしました。9月中旬には最終的な提案書を提出する予定です。JICA側も相当時間が経過していることを気にかけてくれました。私も年内にもう一度フィリピンに行きたいし、NAメンバーともメールで緊密にコンタクトを取りあって本事業を実現させたいと思います。

今回の調査ではフィリピンで実際に問題になっているシャブのあぶりの問題や、ハードなコデインの話はでませんでした。この貧困から抜け出すのは大変です。まして薬物の問題を抱えている依存症者にどれだけのメッセージを伝えられるのか、どうすれば国全体の薬物依存症に対する正当な評価、薬物依存症者自身の自己評価の確立、自立、家族の問題など、何が私たちにできるのか引き続き検討していきたいと思っています。

家族セミナーに参加して・・・ 8/5(日)10時～16時

先日開催された家族セミナーには多くの方に参加していただきました。家族の方から感想をいただきましたのでご紹介いたします。

Aさん

アパリの家族会に出席させて頂いて2回目になります。正直1回目はとても暗く、冷たい感じを受けました。でも5日のセミナーはそれとは反対で苦しいし、大変だし逃げだしたいという思いを持ちつつも、でもやはりわが子に対してどうしていくことが・・・と愛情を感じました。どうなっても関係ないと思っていたらわざわざ遠くからアパリには行かないでしょう。またこの世の中でこんなにも薬物のことで悩み苦しんでおいでの方がいらっしゃるって、でもその数は本当はもっともっと多く、ダルクやアパリに辿りつけなくて悩んでいたり、認めたくないからと避けていたり、わかっていながら隠してたりetc。きっとその数は計り知れない気がしました。町田先生が「ある意味修行」とおっしゃられたこと、本当にそう思います。私たち夫婦は仏教の勉強、心の勉強を今させて頂いて、この子供のことを通して多くの勉強をさせて頂きました。どんなにしてもこの道は通らなくてはいけない親子の道だと思っています。ならば苦しいし、先も果てしなく長い道のりですが、そこに素直に進んでいく。だから修行だと思います。同じ悩み苦しみを抱えながらもアパリやダルクに繋がらない方々に出会ったらなら、「共に歩いていきましょう。」と声をかけていこうと思っています。

先を明るく見よ、必ず道は開ける！！死ぬまで修行！

家族の体験記 好評発売中！！

ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープビル
(アパリで販売中)

家族のための連続講座1

薬物依存症と家族の対応について(1)

カウンセラー 町田 政明

薬物依存症とは？

1回目は薬物依存症とはどんな病気かを取り上げます。この病気に対しては、家族ばかりでなく、多くの援助者も誤解と偏見を持っています。薬物がアルコールやギャンブルと違うのは、脳に対する影響が大きく、また使用自体が法律違反であり、度々逮捕されることが特徴です。

1、薬物の分類 薬物は薬の作用と法律から以下の通り区分されます。

薬物の身体への作用からの分類	
抑制系	アルコール、アヘン、モルヒネ、シンナー、睡眠薬、精神安定剤、ガス、マリファナ等
幻覚系	LSD、シンナー、マリファナ等
興奮系	覚せい剤、コカイン、咳止めシロップ、LSD、タバコ、MDMA等

2、乱用薬物に関する法律

- (1) 覚せい剤取締法・・・覚せい剤、覚せい剤原料(エフェドリン)
- (2) 麻薬及び向精神薬取締法・・・(1)(3)(4)(5)以外の薬物で政令指定されているもの(ヘロイン、モルヒネ、コカイン、MDMA、LSDなど)
- (3) アヘン法・・・けし、けしがら、アヘン
- (4) 大麻取締法・・・マリファナなど
- (5) 毒物及び劇物取締法・・・トルエン、シンナー、接着剤など

3、薬物乱用と薬物依存

乱用とは薬物を本来の目的を逸脱して用いること。

覚せい剤、麻薬、大麻などは、所持、売買や使用が法律で規制されているので、1回でも使用すれば薬物乱用とされます。

薬物依存とは反復使用することにより、分かっちゃいるけど止められない状態になることです。いわゆるコントロールして薬物を使用できない、使用すると離脱症状といって、薬が切れてくるといような精神、肉体的な症状を表します。それで悪いと分かっているにもかかわらず使用を続けることです。

4、薬物依存症の特徴

もう少し詳しく薬物依存症のことを説明します。

(1) 身体依存と精神依存

薬が切れてくるとイライラしたり、眠れなかったり、大変な疲労感が襲って来たりします。それを予防するためにさらに薬を使用することになります。それを身体依存といいいます。

精神依存とは自分の意思で薬物をコントロールできない状態で、本来やらなければいけないことができなくなり、最後は何をしてでも手に入れようとします。

(2) 耐性

たとえば覚せい剤をくり返し使用していると1回に使用する量を増やさないと同じ効き目がなくなります。これを耐性ができたといいいます。薬物を使用しているとこの耐性ができてきて、量を多く使ったり頻繁に使うようになり、身体的、精神的、社会的な問題が出てきます。

(3) 進行性の病気

この病気は量を増やしたり、頻繁に使わないといけなくなりますが、そのため精神や身体だけでなく、社会的な問題も起きてきます。精神的問題や身体的問題が起きて社会生活ができなくなったり、離婚、失職、借金、犯罪など社会的な問題、そして人を人と思わなくなり平気でうそを言ったり傷つけたりするようになり、人間が壊れていきます。最後は刑務所と病院の往復か死に至ります。

(4) 薬物による脳や精神、身体への影響

薬物を使用すると最初から精神症状が出るわけではなく、より多く使用することにより、精神や身体に障害が出てきます。悪くなると人格障害や統合失調症のような症状を呈します。

脳や精神の障害として幻覚、妄想、嗅覚、視力、聴力障害などがあり、身体的な障害としては心臓や血管、生殖器、肝臓などの障害があります。覚せい剤の人はどうしても倦怠感に襲われるとよく言われます。

薬物依存症の特徴はこのように脳や体に作用して、薬を切っても長い間幻覚・妄想が取れなかったりして、中には1~2年、体から薬が切れず社会生活を困難にします。若くして薬物に手を出して病気になると、社会生活のスキルがなく、より社会復帰が困難になります。

5、薬物と犯罪行為

薬物依存症の人は幻覚・妄想で自分が襲われると感じてしまい逆に人を傷つけてしまうことがあります。

薬物は使用と所持そのものが違法なことがあり、犯罪とは切っても切れない関係にあります。日本では逮捕されても薬物依存症としての治療にはほとんど向けられません。逮捕された時こそ実は治療の最大のチャンスだと思います。その意味でアパリの司法サポートは画期的なことだと思います。

町田カウンセラーの「家族のための連続講座」を企画しました。次号からは、より深く薬物依存症についての講義をしていただく予定です。どうぞご期待ください。

絶賛発売中！！



アパリの石塚副理事長、尾田事務局長、嶋根研究員が執筆しています。本書は、従来刑罰しかなかった薬物事犯者対策に薬物依存症治療を導入したドラッグ・コート制度を日本でも創設しようと提案する日本で初めての書物です。

「日本版ドラッグ・コート」
 定価：2,625円(税込)
 発行：日本評論社
 最寄りの書店でお買い求めください！
 (アパリでは取り扱いはありません)

知っているようで、知らないこともある C型肝炎とエイズのこと

ソーシャルワーカー コトー

アパリで非常勤で働いていますソーシャルワーカーのコトーと申します。週1回、アパリ東京本部にて、受刑中のクライアントへの通信ワークショップに取り組んでいます。そのほかには、薬物使用者向けの健康に関するパンフレットの作成などを行っています。今回は、薬物使用ととくに関係の深い感染症として、C型肝炎とHIV（エイチ アイ ヴイ）・エイズについて、基礎的なことを書かせていただきました。病気の特性上、セックスに関する表現がでてきますので、どうかご理解のうえ、お読みくださいますようお願いいたします。

C型肝炎とエイズはこわい病気

なぜC型肝炎とエイズを取り上げるかというと、それはとてもこわい病気だからです。この2つの病気はともにウイルスに感染することでかかる病気なのですが、いったんC型肝炎ウイルスに感染すると、ウイルスが体内からなくなることはほとんどないのです。エイズにいたっては、現在の医学ではウイルスを完全に取り除くことはできません。そして、どちらの病気も放っておくと命にかかわる状態になることがあります。また、どちらも悪い状態になるまで自覚症状がでないことが多いので、検査を受けないかぎり、自分では気づくことがないまま病気が進行していたり、他人に感染させていることがあるのです。とはいえ、2つの病気には、それぞれ有効な治療法がありますので、きちんと治療を受ければ、病気が重くなることをくいとめることができますし、その病気で死ぬということもなくなってきています。しかしながら、その治療はけっして楽なものではありません。長い期間、食べたり飲んだりするものが制限されたり、薬を定期的に飲み続けたり、その薬のつらい副作用に苦しんだりすることがあります。治療が長期にわたると、治療とともに日常生活を続けていくことは簡単なことではなくなります。

C型肝炎とは

C型肝炎とはC型肝炎ウイルスに感染することでかかる肝炎です。慢性化することが多く、その結果、数十年後に肝硬変に、やがては肝細胞がんなどの重い肝臓の病気にかかることがあります。治療薬（インターフェロンなど）により病気の進行を遅くしたり、回復することもあります。すべての人に効果があるとは限りません。検査を受けて適切なタイミングで治療を開始することが重要となりますので、感染しているかどうか、検査を受けて知ることが大切となります。

C型肝炎ウイルスは、血液に多く含まれます。ウイルスの含まれた血液が、自分の粘膜や傷口を通して体内にはいることで感染することがあります。粘膜とは、目、口の中、鼻の穴、ペニスの先（尿道口）、膣、肛門などです。ですから、血液がこういうところに直接触れるようなことがあると、感染する可能性がでてくるのです。

C型肝炎ウイルスに感染するとしたら、注射器のまわし打ち（あるいは使いまわし）、入れ墨やボディピアスの針の使いまわし、かみそり・ひげそりや歯ブラシの共有などが考えられます。なお、ここでいうまわし打ちとは、複数の人が同じ場所に居合わせて注射器をまわし打つことで、使いまわしとは、一度使われたものを違うときに違う人に再使用するという意味です。また、感染している人の使ったかみそり・ひげそりや歯ブラシにその人の血がついているときに、それを自分が使うことで感染することもあります。かみそり・ひげそりを使うと自分自身にも小さな傷がつき、その傷口を通して感染することがあるのです。セックスで血がでることはあまりないかもしれませんが、たとえば生理中のセックスや、出血しやすいアナルセックスなどでは、血液に触れた方に感染の可能性がでてきます。可能性は低いといわれていますが、C型肝炎ウイルスを持った母親から生まれてくる赤ちゃんへの感染（母子感染と呼ばれます）もあります。

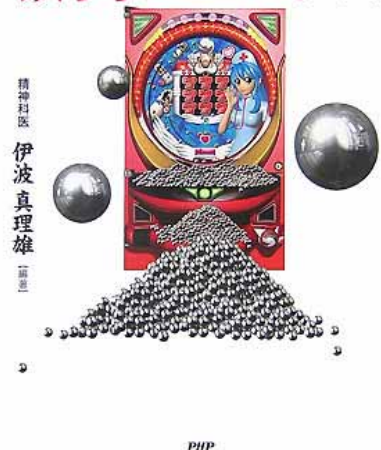
エイズとは

こうてんせいめんえきふぜんしょうこうぐん ひとめんえきふぜん
エイズ（後天性免疫不全症候群）とは、HIV（人免疫不全ウイルス）に感染して免疫力が弱くなるために起こるいろいろな病気をまとめて呼んだものです。つまりエイズは病気の名前で、HIVはウイルスの名前です。HIVに感染すると、やがて免疫力が弱まり、ウイルス、細菌、カビなどが原因でいろいろな病気にかかります。これを“エイズが発症する”と言います。早い時期に検査を受けて、自分が感染していることを知れば、効果的な治療を受けやすくなり、エイズを発症をくいとめることができます。つまり、HIVに感染しているかどうか、C型肝炎と同様にまず検査を受けて知ることが大切なのです。

HIVは血液、精液、膣分泌液、母乳に含まれています。HIVが含まれたこうした体液が粘膜、つまり目、口の中、鼻の穴、ペニスの先（尿道口）、膣、肛門などや傷口に直接触れることで感染する可能性がでてきます。具体的には、ペニスが膣や肛門に挿入されるセックス、注射器のまわし打ち、母子感染が挙げられます。なお、母子感染については予防法があり、母親から赤ちゃんにHIVを感染させずに出産・育児をすることが可能です。また、注射器のまわし打ちについては、C型肝炎ウイルスとHIVそれぞれ感染の可能性のあることとなります。ただし、C型肝炎ウイルスと違い、物を介してHIVに感染するということはありません。

HIVはセックスによって感染することが一番多いと言われています。そして、ペニスを膣やアナルに挿入する人よりも、挿入される人のほうが感染する可能性はより高いのです。ただし、C型肝炎ウイルスもHIVも感染力は強くありません。すなわち、HIVに感染している人とコンドームを使わないセックスがあっても、感染する可能性より、感染しない可能性のほうが高いのも事実です。しかし、やはりこわい病気ですので、感染を予防することはとても大切です。

病的ギャンブラー 救出マニュアル



全国書店にて発売中！

精神科医、司法書士、PSW、カウンセラー、研究者、当事者など様々な立場から強迫的ギャンブル（ギャンブル依存症）の病気の特徴や回復についてQ&Aでわかりやすく解説しています。特に当事者の生の声は参考になります。家族がギャンブルの問題で困ったときの必読のバイブル書です。

「病的ギャンブラー救出マニュアル」

定価：1,260円(税込)

発行：PHP研究所

全国の書店でお買い求めください。

C型肝炎ウイルスとHIV感染の可能性を行為ごとにまとめました。

行為	C型肝炎ウイルス感染の可能性 (出血時のみ)	HIV感染の可能性
セックス(ペニスを膣・アナルに挿入する・挿入される)		
注射器のまわし打ち		
入れ墨用などの針を未消毒で使いまわしされる		×
ひげそり・かみそり、歯ブラシを共有する		×
母親から赤ちゃんへの感染(母子感染)	(低い)	
同じ風呂に入る	×	×
ジュースなどの回し飲みや鍋を一緒に食べる	×	×

感染の予防

誰かと一緒に暮らしていて、その人との日常生活のなかで感染を防ぐことを考えた場合、その人とコンドームを使わずにセックスするか、注射器のまわし打ちをすることがなければHIV感染の心配はまずありません。C型肝炎の場合は、ひげそり・かみそりや歯ブラシの共有などのように、他人の血液や血液のついたものが、粘膜や傷口に触れることに気をつけることで感染を防ぐことができます。セックスでの予防はコンドームを正しく使うというのが基本的な予防方法です。セックスの相手が誰であれコンドームを使うことが大切と言えます。また、薬物を使ってセックスするとき、長時間セックスをしていたり、相手にされるがままになったり、コンドームを使わずにセックスしたりすることがあるかもしれませんので、そのなかで感染を予防する、あるいは感染のリスクを下げる方法を実行できれば素晴らしいと思います。

紙面の関係で予防については簡単にしか書いていませんが、また機会があれば、予防方法だけではなく、検査や治療のことなども書いていきたいと思っています。またアパリでは現在、薬物使用者を対象にしたC型肝炎やエイズをはじめとした感染症予防パンフレットを作成しています。今秋には完成予定ですので、その際にはぜひお知らせしたいと思っています。感染症のことなどで、ご質問や感想などありましたら、どうかご遠慮なくアパリ東京本部までお寄せ願います。

**アパリ発行
「Born・Again(ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!**

2005年5月に第2版が発売になりました。体験談が13人分収められています。アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

**定価：1,500円
(会員価格:1,000円)**

お申込はメールかファックスで
FAX：03-5830-1791
メール：info@apari.jp
ご住所、お名前、お電話番号をご記入の

サムの なんちゃってアノニマス劇場 (略してNA劇場)



アノニマス劇場のメッセージ

回復者スタッフのサムが、今も苦しんでいる仲間のためにメッセージをマンガにして届けています。少し考えないとわからない深いものや、NAに参加していないとわかりづらいものもあります。想像力を働かせて見てください。

[Addiction = 依存症、Never Alone = 決して1人ではない]

アウェイクニグハウスの入寮者からのメッセージ

「 回 復 」

アキオ



施設の庭で日々、太鼓の練習に励んでいます。

ロイ神父からのメッセージ DVD付き書籍 販売中！

『仲間になってくれてありがとう』

昨年他界したロイ神父が20年以上にわたりマック・ダルクを通して語ってくれた数々の貴重なメッセージと、彼の“仲間”からの手紙を綴った珠玉の一冊。日本における依存症リハビリ施設の歴史を知り、回復者たちの生の声を聞くことができる総頁数500ページを超える重厚な内容に加えて、ロイ神父のビデオメッセージが収録されたDVD付き。援助職の方、ご家族、当事者などさまざまな立場の方にとって必読のバイブルです。一般の書店ではご購入できません。

定価：3,500円

FAX：03-5830-1791

メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

僕は、17歳の終わり頃から薬を始めました。

きっかけは友達からの誘いでした。友達が薬を使っていて「アキオ」もやろうぜって言うてきたけど、その時僕には付き合っていた彼女がいたし、彼女と一緒にいたほうが楽しかったから断ることができていた。しかし、友達の誘いが激しくなって友達がヨレてる姿を何十回も目の前で見るようになって、薬に興味を持つようになった。何日後かに薬を使う決心をして薬を使う人生がスタートした。最初の一回だけなら大丈夫だろうと思ったんだけど、最初の一回が取り返しのつかない事になってしまった。最初のうちはコントロールがきいていて周りの人達を傷つけていなかったと思う。「クラブ」で使うようになって、週に5日は毎日のように、MDMAを4錠食っていた。僕は薬にはまって世の中に薬だけあればいいと思っていたし、悪いことをしても何とも思わなかった。金が無くなれば、人を騙して金を手に入れていたし、親の結婚指輪も売った。金になる物は全て売ってきた。裏の仕事をして、金を手に入れた。その時の僕の考えは、薬、金、女の3本柱だった。

いつの間にか、コントロールがきかなくなって、薬の量も一気に増えて、人を傷つけても何とも思わなくなった。悪い事をするのがカッコイイと思っていたし、薬を使うのが当たり前でカッコイイと思っていた。うまく薬を使うことが出来なくなって、1回目の塀の中に入った。少しは反省したけど薬のことばかり考えていた。親が面会に来て薬は止めるよって口では言っていたけど、心の中では、絶対に止めねーって思っていた。薬が欲しくてしょうがない僕は、強い処方薬をもらって、気持ちいい思いをしていた。塀の中を出てもすぐに使った。その時はもう薬物依存になっていたと思う。

親父が病気になっていて、家族は僕に悩まされていたと思う。家族の事だったり、周りの人達の事は全く気にしてなかった。自分さえよければOKだった。

クリニックに通う事になって、初めてミーティングをやるんだけど、薬を使いながら参加していた。家族は本当に僕の事でいっぱい、いっぱいだったみたい。周りの友達からも捨てられて、一人で薬を使っていた。その時も考えは変わらず、薬、金、女だけだと思っていた。

2回目の塀の中、僕は本当に薬を止めたかった。結果は少年院。親が倒れた。少し前まで元気だった父が倒れて、身体障害者になってしまった。僕が薬を使ってとことん追い詰めて、精神的におかしくなっていたんだと思う。すごく責任を感じたし、本当に薬を止めたいと思った。

これ以上人を傷つketくなかった。涙もたくさん出た。生まれ変わりたいかったけど、少年院を出て2日目で再使用した。沢山の人が心配してくれてたのに又、裏切った。薬を使っているのが楽しかったし、気持ちよかった。

何ヵ月後かに、日本ダルク アウェイクニグハウスに入寮する事になってバッグの中に大量の処方薬を入れて来ていた。わずか1日で逃げた。逃げた理由は、薬が欲しくて逃げた。その後入院した。離脱ですごく辛かった。薬は止めたくなかった。退院したら薬を使って楽しもうと思っていた。

2回目の入寮生活がスタート。最初の何ヶ月間は何でここにいるのか、分らなかった。行く所がないから、ここにいればご飯も食べられるし、寝る所もあるし、風呂にも入れる、仕方なく居た。プログラムもやっていなかった。薬も使いたかった。その時の僕は、回復なんてどうでもよかった。ずっと親を恨んでいた。けど僕のことを支えてくれたのは家族。仕方なく居たのに、今は目標をもっている。自分なりにプログラムをこなしている。回復しているかどうかは分からない。僕にとっての回復は、NAで話ができるようになったら回復。11ヶ月目だけど未だにダメ。自分のため、家族のために頑張りすぎず頑張る。

最後に、僕の事を誰かが待っているかもしれないし、待っていないかもしれない。とにかく今の僕には「今日一日」！！

施設長からのご挨拶

こんにちは、日本ダルク アウェイクニングハウスの山本です。うだるような暑さが続きますが、皆様はどうお過ごしでしょうか？ご存知のようにここ藤岡の施設は山の上であり気温も下界より4度近く低いのですが、それでも寝苦しい夜が続いております。

さて、去年に私がここに赴任してから早くも1年が経とうとしています。この1年間を振り返るとたくさんの出来事がありましたが、皆様や仲間の力を借りる事によって、少しづつですが良い方向に変化していったと実感しております。

今年に入ってから、事務所の改装、ミーティング・ルーム、食堂のリフォーム、エレベーターの点検、汚水の汲み取り等を行うことが出来ました。そして9月にはエレベーターの補修を予定しております。

また5月から新しく始めた琉球太鼓のプログラムも定着し、10月には数名の仲間たちがデビューする予定もあり、日々一生懸命練習に励んでいます。ここで皆様にお願いがあります。仲間達のデビューに向けて、新しい太鼓及び衣装の購入を考えておりますが、購入資金が足りない状況です。是非皆様のお力を貸していただきたいと望んでおります。

私たち「日本ダルク アウェイクニングハウス」は今後ともよりいっそう努力し、皆様への感謝の気持ちを念頭に入れ、仲間達の回復の場を提供して行きたいと思っております。どうかこれからもご支援、ご協力をお願い申し上げます。

平成19年8月吉日 日本ダルク アウェイクニングハウス
ディレクター 山本 大

< 献金をいただいた方 >

金子貞子様、高木行雄様、斉藤幹朗様、水沢直子様、梅堀文彦様、
小山久須美様、亀田牧則様、佐久間清子様 深野圭介様 順不同

< 献品をいただいた方 >

奥田保様、 猿渡順一様 順不同

施設の中をリフォームしました！！



畳の部屋から見事なグリーンのミーティングルームにリニューアルしました。



あの食堂がこんなお洒落に生まれ変わりました。椅子も4色とカラフルです。

アパリ会員募集

平成19年4月より新規会員（正会員・賛助会員）を募集中です。ご入会していただいた方には、会報「フェローシップ・ニュース」を毎号お送りします。また、書籍購入の割引や公開講座・フォーラム、自助グループ開催に関する情報提供等、様々な特典がございます。正会員になられた方の特典は、年に一度開催される総会に参加し、意見を述べる事ができます。

アパリは立ち上げて8年目に入った組織です。今後も、薬物関連問題の新たなシステムとネットワーク構築のために全力を尽くしていく所存です。APARIに関するご意見ご要望がございましたらいつでもご連絡ください。

【年会費】 正会員：12,000円 賛助会員：6,000円

【期間】 平成19年4月1日～平成20年3月31日まで

【郵便振込】 番号：00160-7-136870 アパリ東京総本部

アウェイクニングハウスとは振込み先が異なりますのでご注意ください。

< 琉球太鼓デビュー >
10月6日（土）千葉で開催される講演会にて、仲間5名が太鼓デビューします。どうぞ応援に来てください！
詳しくはアパリのホームページのトピックスをご覧ください。

< 太鼓献金のお願い >
太鼓や衣装を買う資金が足りません。皆さまのお力をお借りできればと思います。献金にどうぞご協力ください。
同封の郵便振替用紙に太鼓献金とご記入ください。
番号：0100-2-409942
日本ダルクアウェイクニングハウス

ミニー神父、帰天されました。

AAの日本の創始者であり、マックやダルクの設立や活動に多大な貢献をしたジャン・ミニー神父がお亡くなりになりました。

< 追悼ミサ >

日時：平成19年9月29日（土）15:30～

場所：四谷 聖イグナチオ教会



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部
〒110-0015
東京都台東区東上野6-21-8
電話 : 03-5830-1790
FAX : 03-5830-1791
Email : info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター
(運営: 日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番
電話 : 0274-28-0311
FAX : 0274-28-0313

- 【入寮条件】
1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
2、男性(年齢制限なし)
【入寮期間】
基本的に13ヶ月
【入寮費】
月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)



ホームページもご覧ください
(新しくなりました)
<http://www.apari.jp/npo/>

発行者: 近藤恒夫
編集責任者: 志立玲子
平成19年9月1日発行
定価 1部 100円

<アパリの司法サポート>

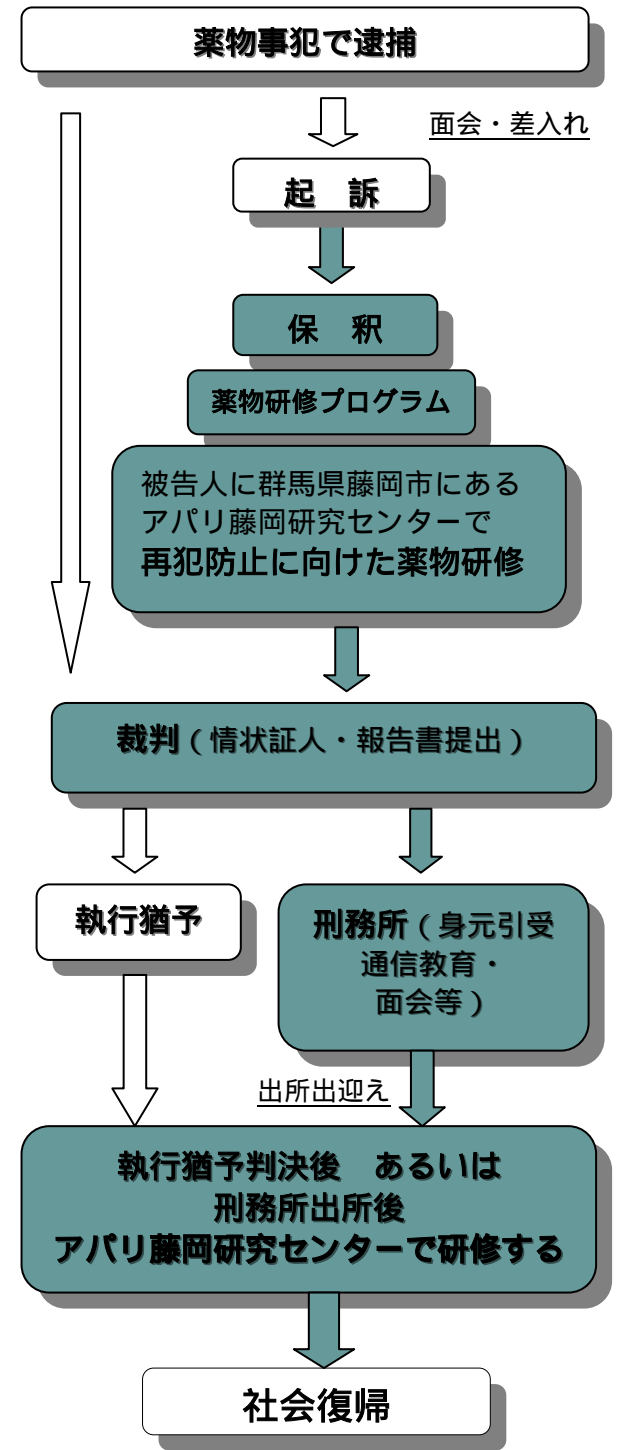
《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用: コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

対象: 薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

日時: **第1・第3月曜日**
18:30~20:30

場所: アパリ・クリニック 上野2階(場所をお借りしてるだけです)

参加費: 3,000円
(ご夫婦で参加はお二人で4,000円)

【お問合せはアパリ東京本部まで】

日付	体験談(30分)	テーマ
9月17日(月)	高橋仁(日本ダルク・スタッフ)	無力
10月1日(月)	ヨウコ(群馬ダルク・スタッフ)	クスリを止めて良かった事、ツライ事
10月15日(月)	セナ(男性メンバー)	過去と現在
11月5日(月)	プーキー(男性メンバー)	社会復帰の難しさ

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など。出張カウンセリングは相談の上、実施可能かどうか判断させていただきます。(料金は別途必要)

【費用】45分 9,000円 【場所】アパリ東京本部 501号室

【カウンセラー】町田 政明 [元神奈川県立せりがや病院勤務、ホープヒル代表、寿アルク理事] 【予約】電話でお申し込み下さい。03-5830-1790

【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間